

平成25年2月15日
原子力安全対策室

北朝鮮核実験関連 放射能調査結果について
(第4報 2月15日10:00発表)

北朝鮮核実験に関連し、石川県では2月12日から環境放射線モニタリングを強化しています。

2月15日8時までの放射線量については、異常値は認められていません。
また、昨日採取した飲料水（原水）、土壌の測定では、異常値は確認されていません。なお、一部の土壌から極めて微量のセシウム137が検出されましたが、平常値の範囲内であり、他の人工放射性核種も検出されていないことから、今回の核実験の影響によるものではないと考えております。（別紙参照）

詳細は原子力安全対策室ホームページ(<http://atom.pref.ishikawa.lg.jp/>)からも確認できます。

連絡先
石川県危機管理監室
原子力安全対策室
外線直通 076-225-1465
県庁内線 4234

石川県内放射線量の監視結果

単位: $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)

地点		平成25年2月15日 8時現在の値	【核実験後～】 平成25年2月12日12時～15日7時		【過去の測定範囲】 平成21年度から平成23年度			
			平均値	最大	平均値	最大	最小	
観測局	輪島市	能登空港	0.031	0.022	0.039			
	志賀町	志賀局	0.049	0.047	0.063	0.049	0.131	0.031
		赤住局	0.049	0.049	0.063	0.050	0.119	0.040
		直海局	0.051	0.052	0.066	0.054	0.126	0.039
		五里峠局	0.054	0.053	0.067	0.056	0.128	0.035
		福浦局	0.040	0.041	0.057	0.042	0.117	0.033
		熊野局	0.047	0.046	0.061	0.048	0.121	0.033
		風無局	0.048	0.049	0.062	0.050	0.115	0.041
	七尾市	土川局	0.038	0.038	0.056	0.042	0.119	0.025
		大津局	0.043	0.043	0.056	0.045	0.101	0.030
	羽咋市	余喜小学校	0.064	0.065	0.083			
	津幡町	河北地域センター	0.062	0.062	0.084			
	金沢市	保健環境センター	0.048	0.047	0.069			
	能美市	辰口局	0.048	0.043	0.062	0.058	0.107	0.020
	小松市	さわ池ふれあいパーク	0.054	0.053	0.082			
可搬型	輪島市	能登北部保健福祉センター	0.057	0.054	0.057			
	七尾市	能登中部保健福祉センター	0.080	0.080	0.087			
	小松市	南加賀保健福祉センター	0.064	0.054	0.084			

(注1) 県ホームページでは放射線量の監視結果は nGy/h で表示されているが、国の放射能対策連絡会議において、 $1\ \mu\text{Gy/h} = 1\ \mu\text{Sv/h}$ と換算し $\mu\text{Sv/h}$ で公表されたことから、県でも単位を併せて $\mu\text{Sv/h}$ で公表することに変更。

(注2) 1時間値を記載。

環境試料(飲料水、土壌)の測定結果(人工放射性核種)

調査項目	飲料水(原水) (ベクレル ^{*1} /kg)						土壌(表層)または雪(積雪) (ベクレル/kg)				
	輪島市	七尾市	金沢市		白山市	加賀市	輪島市	七尾市	金沢市	白山市	小松市
採取日	輪島市 浄水場 (河原田川)	上町浄水場 (中島熊木川)	犀川浄水場 (内川ダム)	末浄水場 (犀川ダム)	鶴来浄水場 (手取川ダム)	山中浄水場 (九谷ダム)	能登北部 保健福祉 センター	能登中部 保健福祉 センター	末浄水場	松任 中学校	南加賀 保健福祉 センター
平成25年2月12日	検出 ^{*2} なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし (雪) ^{*3}	検出 なし	検出 なし (雪)	検出 なし	検出 なし
平成25年2月13日	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし (雪)	検出 なし	検出 なし (雪)	検出 なし	検出 なし (雪)
平成25年2月14日	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	検出 なし	セシウム137 6.4 ^{*4}	検出 なし	検出 なし (雪)	検出 なし	検出 なし

(コメント)

*1) ベクレル:放射能の強さを表す単位であり、1秒間に原子核1個が放射線を放出して崩壊するときの放射能の強さを1ベクレルという。

*2) 「検出なし」は検出下限値未満であることを示す。例として、ヨウ素131、セシウム137の検出下限値を示す。

例: 飲料水(原水) ヨウ素131: 約0.2ベクレル/kg、セシウム137: 約0.2ベクレル/kg

土壌 ヨウ素131: 約2ベクレル/kg、セシウム137: 約2ベクレル/kg

雪 ヨウ素131: 約3ベクレル/kg、セシウム137: 約3ベクレル/kg

*3) 土壌の上に雪が積もっていたため、代わりに雪の測定を行ったもの。

*4) 極めて微量のセシウム137が検出されましたが、平常値の範囲内であり、他の人工放射性核種も検出されていないことから、今回の核実験の影響によるものではないと考えております。

セシウム137は、半減期^{*5}が30年程度の人工放射性核種です。核実験の影響がある場合には、セシウム137のほか、半減期が短いヨウ素131(8日程度)などの人工放射性核種が検出されますが、今回はこれらの核種が検出されておりません。したがって、セシウム137については、今回の核実験によるものではなく、1950-60年代に行われた核実験やチェルノブイリ原発事故等の影響によるものと考えております。

*5) 半減期: 放射性物質の量が半分になるまでの期間。